

様式 4

令和 2 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立智頭農林高等学校
校長 大塩 朋

評 価 日	令和 3 年 2 月 3 日 (水)	
評 価 ・ 提 言	学校の見聞・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>○ (新入生の確保) 県外への募集をしていけば、住まい (下宿) の確保が必要となる。地元智頭町に斡旋をしてみてもどうか。</p> <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <p>○ (部活動振興) 智頭農林高校に進学して部活動がしたいと考えている中学生がいる。全ての要望に対応できないと思うが何とかならないか。</p> <p>○ (学校広報) 保護者アンケートの結果にも表れているが、学校の情報発信、特にホームページの充実をお願いしたい。業者に委託することも検討してはどうか。</p> <p>3. 取組改善のための提言</p> <p>○ (学校運営) コロナウイルスが収束した後も、学校を運営していく困難さがあると思う。</p>	<p>○これまで県外の入学生があった場合、智頭町にはいろいろとお世話になっている。県外から志願する生徒がいるか分からない時点では、智頭町に依頼しにくいですが、もしあれば、地元の協力が必要になる。学校としては、新入生確保するため県外に向けても P R を頑張っていきたい。</p> <p>○現在、熱心に活動している部があるし、他校との合同チームで県大会に出場して好成績を収める部もある。新しい部、同好会を設置する際、顧問の配置や教職員の勤務時間等の問題で簡単に認めることできない。可能な範囲では対応していきたい。</p> <p>○来年度予算で学校独自事業 (新) 学校広報推進事業を取り組む予定である。学校だけではホームページの制作に限界があり、外部の力を借りながら魅力的なものを発信していきたい。</p> <p>○当分の間は、感染が拡大する前の状態に戻らないことを前提に考えていかななくてはならない。今年経験したことを活かして、次年度の学校運営を行っていききたい。</p>	

○（学習内容）

生徒や教員の減少する中では、沖代圃場の維持は難しいのではないか。

4. その他

○（授業参観の感想）

- ・少人数で落ち着いて学習できている。

○（予告）学校運営協議会制度について

○圃場管理を担う農場補助職員を配置している。また、耕作放棄地における効率的な大豆栽培に取り組むなど、人手をかけられないことを前提にした学習を行っている。

もし、地元の方で沖代を借用したい方があれば、本校の管理軽減にも繋がり有り難い。

